

けんれん 61号 ニュース

■ けんれんニュースは茨城県共同募金会の助成金により発行しております

ご家族を支える

家族相談事業をスタートしました

茨城県連では令和5年度より、身内に精神疾患の患者さんを持つご家族の為の相談を、毎週火曜日に行っております。(県委託事業)

こんにちは。相談員の山田です。

私の長男は自閉症です。30年程前、自閉症はまだまだ理解されていませんでした。言葉が出ないこと。多動なこと。どこに相談しても「お母さんの育て方が悪い」と言われてきました。

自分でできる限りの事をしましたが、何も変わりません。相談するのも怖くなりました。三歳児健診の時、児童相談所に行ってみてはと勧められ、そこで自閉症と診断され、その時にやっと“この子を障害者として育てる”と覚悟ができました。

こんな経験をした私だから、きっと私にしかできないことがあると考え、福祉の仕事に就きました。初めて精神の方の施設で仕事をしたのは20年前です。それから18年間働いてきました。

施設の職員さん、相談支援員さんなど、障害のある方の支援はすでにあります。しかしご家族を支援する仕組みはありません。当事者を一番支えているのはご家族です。

障害こそ違えど、この子のためにどうすればよいのかと、悩む辛さは私も経験してきました。

だからこそお役に立つこともあると思います。

少しでも心の重荷を降ろせるよう、お話をお聞きます。どうぞ宜しくお願いいたします。



元障害者施設長

(保有資格)

介護福祉士

難病患者ホームヘルパー

行動援護従業者

ご利用案内

【対象】 身内に精神疾患の患者さんを持つご家族

【相談日】 毎週火曜日 13時～15時*祝日は除く

【場所】 茨城県精神保健福祉センター 3F

茨城県精神保健福祉会連合会 水戸市笠原町 993-2

【利用方法】 電話相談 **ご予約不要** 相談日にお電話ください。

面接相談 **要予約** ご予約は月・火・木の9時～15時に承ります

【料金】 無料

ひとりで悩んでいませんか？

どんなお悩みでも

お気軽にご相談ください。

(匿名でも大丈夫です)

Check!

TEL: 029-243-6172

■ 発行者

(一社) 茨城県精神保健福祉会連合会 会長 兼 清紀 郎

〒310-0852 水戸市笠原町993-2

茨城県精神保健福祉センター内

TEL / FAX 029-243-6172

e-mail: ibaseifukuren@biscuit.ocn.ne.jp

家族会案内

今号のP6には各家族会の一覧があります。他人になかなか理解してもらえない悩みや体験を話し合ったり、福祉制度の勉強会などを開催しています。是非ご覧ください。

ストップ・ザ・虐待!

精神科病院での虐待の通報義務化～令和6年4月より～

今年2月、東京八王子市にある滝山病院での虐待・暴力事件がニュースで流れ、体が硬直! その映像に「本当にこんなことがあるのか?」と目を疑いたくなりました。現在、精神科病院においての虐待に対し法的通報義務はありませんが、令和6年4月より、通報が義務化される運びとなりました。実際に、茨城県内でもここ数年、障害者虐待の相談・通報は、家庭や、施設、職場などで年間120件ほどにも上ります。では、どうしたらこのような虐待がなくなっていくのでしょうか?

家庭で 家族支援がカギ

やはり家族の病気への理解が不足していることもあると思いますが、どうしてもいろんなことを家族だけで抱え込んでしまいがちで、ストレスや不満のはけ口が弱い障害者に向かってしまっているのではないかと思います。そこで大切なのは「家族支援」ではないでしょうか。当事者の一番近くにいる、一番影響を与えやすい家族に対しての支援が本当に足りないと感じています。特に精神科の治療については、多職種の専門の方と、家族と、当事者で進めていくべきではないでしょうか。私事ですが子供が精神病を発症したとき、私たち家族は何の知識も無い上に病院からの説明も無く、子供の症状も不安定で、不安で不安で目の前が真っ暗になり「この子を連れて死のう」と思ったことを思い出しました。分からないということは、そのくらい追い詰められるという事だと思うのです。「家族支援」が進めば社会で守ってもらえるという安心感が得られ、家族に余裕ができ虐待も減っていくのではないかと思います。

施設で 障害者ではなく一人の人間として

作業所やグループホームでの虐待はスタッフ側だけの問題なのか? 当事者に問題があるとすれば何が原因なのか? 一人一人に違った対応をするのは大変な事だと思いますが、しかしそれが必要なのだと思います。そのためには【当事者の思い】に耳を傾け、そしてスタッフ間で意見交換を重ね対策を練ってほしいと思います。施設等で働くスタッフの方には基本的な研修は必須ですが、どういったことが「虐待」になるのか? 日頃の何気ない言葉かけや態度が「虐待」になるかもしれない、という事を分かってもらえたら嬉しく思います。初めから「障害者」として扱うのではなく、「一人の人間(大人)」として接することが大事ではないでしょうか?

病院で 精神科医療の一般化と情報公開

精神科病床においては、精神科だけに特化した体制(精神科特例)が50年以上続き、医師は一般病床の1/3、看護師は2/3でよいことになっていましたが、2014年より急性期病床のみ一般病床と同等に改善されました。しかし実際は、右の表の通り旧態依然の状況です。また、入院一人当たりの入院収入も一般病床の約30%で、少ない人員、少ない医療費で入院患者を増やして運営している背景があり、慢性的な労力不足が生じ、医療従事者のストレスや不満が虐待につながっているのではないのでしょうか。

一方、県内の病院の中には、病院内に「苦情処理委員会」が常設されており、家族会の会長さんもメンバーの一員になっているとのこと。病院との情報交換、意見交換ができていく良い事例だと思います。

病院の100床あたりの常勤換算従業員数

	職員総数	医師	薬剤師	看護師・ 准看護師
一般病院	157人	19人	4人	68人
精神科病院	67人 (43%)	4人 (21%)	1人 (25%)	33人 (49%)

(厚生労働省政府統計医療施設調査・病院報告の概況より) 2020年

【法改正についての課題】

①精神科病院での虐待通報を「精神保健福祉法」の中で義務付ける改正法が施行予定だが、通報窓口は都道府県となっており、都道府県による指導がどこまで徹底するかの課題がある。②他障害(身体・知的)と同様に「障害者虐待防止法」の中に医療機関等を含める法改定が必要。通報窓口は市町村。③障害者権利条約でも指摘されているように、「第三者による人権機関」を設置し、監視できる制度も必要。

私たちにできることは 閉鎖的空間から外へ

閉鎖された空間、環境は人から人間性を容易に奪い去ると言います。暴力などの身体的虐待、性的虐待、心理的虐待などが、このような閉鎖された環境の中で生まれているのかもしれない。日本においては、なかなか障害者に対する理解が進んでいないように感じますが、私たちにもできることがあります。「障害のある人も、私たち家族も、胸を張ってどンドン外に出て行きましょう！声をあげましょう！」そして、家庭でも施設でもどんな場所でも、「笑い」と「笑顔」を大切にしていけば、必ず【人に優しい社会】になるはず、と信じています。

弓野 孝子



知っていますか？

日本の精神科病院



精神科病院病床数の推移

	日本の病床数
1955 (昭和 30) 年	約 4 万床
1975 (昭和 50) 年	約 27 万床
1995 (平成 7) 年	約 36 万床 (世界 185 万床) ※
2022 (令和 4) 年	約 32 万床 (入院者数 26 万人) ◆

病床数：全世界の約 2 割

(全世界入院患者の 5 人に 1 人は日本人※)

入院期間：ダントツ世界一！

欧米の精神医療は 1960 年代頃から病床数を減らし、地域社会へと移行して行きますが、日本ではこの頃から病床数が飛躍的に伸び、世界の動きと逆行する形をとっています。毎年日本では 6 月 30 日付で、全国の精神科病院等の状況について、630 調査(ロクサンマル調査)が実施されます。この調査により、精神科病院入院患者の状況、すなわち、入院形態や在院期間、退院後の転機など様々な情報が公開されます。令和 4 年度の日本の精神科病院在院患者数は約 26 万人(◆病床数 32 万床)です。うち、1 年以上の長期入院者は 16 万人で、なかには 30 年、40 年以上になる方もいます(いわゆる社会的入院)。その中で、社会の受け皿(住居やサービスなど)が整えば退院できるとされる方は、およそ 7 万人にも上るのです。病院の出口、すなわち社会復帰システムの充実が急務です。

◆茨城県の病床使用率 75% (全国平均 81%)

ほっとひといきコラム

ひとときの明るさ

右の書“明”にはいろいろな気持ちが入められています。書展を友人と見て回るうち「いつか自分で少しでも感動する書に近づけたら!!」と“習い始めることに年齢は関係ない”と自分で勝手に思い、書家に師事し書道にチャレンジしました。その後、側で見ていた息子も「自分も学生時代から得意だった書をやりたい」と、私とは違う書家に師事し、無理ない程度にスタート。迷いながらも一文字一句、丁寧に書いてるうちに、墨の香りと共に、つまらない事など考えないで、心も落ちつき、時の経つのも忘れ、肩の力も抜け、「無心」になれる気がします。こういう時間が持てる事に感謝しほっと一息。その場で笑みが出ます。単純でありますが高貴な明るいひとときです。





令和5年度定時社員総会報告

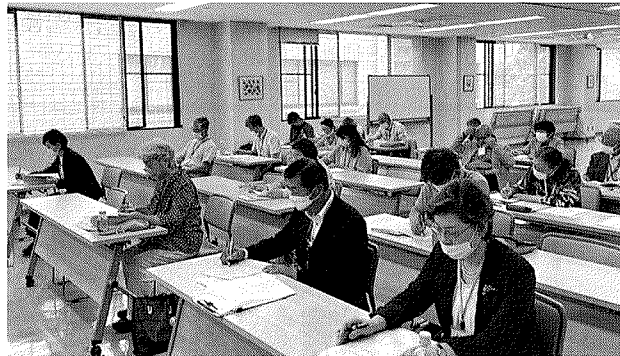
県連 常務理事 竹之内 啓吾

5月30日、茨城県精神保健福祉センターで開催された定時社員総会では県福祉部障害福祉課課長の森田教司様、県精神保健福祉センター次長兼相談支援課長の小松崎直人様からそれぞれ祝辞を頂きました。

議案につきましては、精神障害者の社会復帰及び社会参加を促進する団体等との連携強化などに関する質疑ののち、承認を得たことを報告します。

役員は、長年県連の運営に尽力された井川コヅエ監事が退任、新たに阿久津善弘様、多田公樹様がそれぞれ理事に就任されました。

総会に続いて開催された家族会会長会議では、今年度のマル福の適用拡大を目指す活動にあたり、精神障害者福祉の置かれた状況を資料で提示し説明させていただきました。また、家族会が運営母体であったNPO法人会員への配慮や、地域医療で起きた虐待事件の周知などのご意見もうかがいました。



新役員からのご挨拶

理事 阿久津 善弘

「広島県では新たに統合失調症にかかった方がほとんど入院せずにすんでいる」(月刊みんなねつと)との記載に私はたまげました。以前より医療・施設等の環境は良くなっているが、当事者、家族の日々の苦労は続き、まだ解決事項は残っています。診察時に若い患者を見ると、同じ苦汁を繰り返すのか、と。茨城県でも当事者・家族がもっと安心できたら良いと思います。



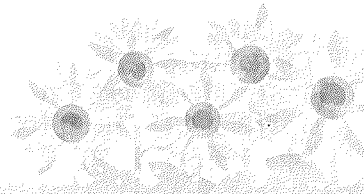
理事 多田 公樹

私には三つの立場があります。一つは精神疾患当事者の立場、もう一つはほっとピア・ワークスの職員という支援者の立場、さらに当事者の妻や引きこもりだった兄を持つ家族の立場。今回、理事に就任し、この三つの立場から私ができることをこなしていきたいです。特に他都道府県から大きく後れをとっているピアサポートの分野には力を入れていきたいと思っています。何卒よろしくお願いたします。

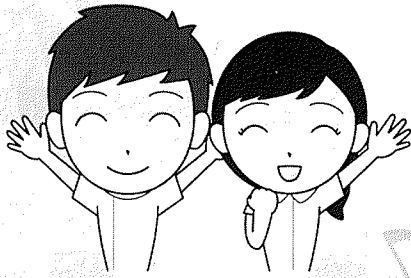


令和5年度 役員名簿

役職	役員氏名
会長	兼 清 紀 郎
副会長	弓 野 孝 子
副会長	根 本 比 呂 子
常務理事	竹之内 啓 吾
理 事	清 水 紀 弘
理 事	塚 本 武 志
理 事	野 中 秀 子
理 事	青 木 千 鶴 子
理 事	阿久津 善 弘
理 事	多 田 公 樹
監 査	武 藤 清 子



みんなの声



家族会に助けられて

若葉が萌える頃、3年ぶりに対面での家族会総会を開催することができました。

思い出話ですが、私は会の集まりでウオンウオン泣き、先輩に「私もそういうことがあったよ」となだめられました。なぜ泣けたのかと申しますと、この会で話したことが外にはもれず、同じ悩みを持ち共有できる仲間がいたからです。37年続いているこの家族会。会員が心の底から泣き笑って、スッキリした気持ちで明るい生活ができることを望んで、ますます盛り立ててゆきましょう。

ひたちなか地域家族会 根本正子

病気を抱えた当事者とどう向き合うか？

家族・医療・福祉関係者が病気や障害に対する知識を、既成概念にとらわれすぎずに深めてゆく努力をしましょう。

病状や障害にこだわりすぎると当事者を理解することが難しくなり、誤解や偏見、あきらめの目で見られるようになる危険があります。症状に対する治療は必要だと思いますが、医療ができることにも限りがあり、医学的診断が患者さんの人生を決めてしまうものではありません。

当事者が経験を積み、少しずつ考える力をつけていくことが当事者自身の生きる力をつけていきます。当事者が成長できるように、周囲のかかわりなど人的・物理的な環境を整備することが大事だと思います。

ハートネット日立市民の会

精神保健福祉士 池内 秀夫

我が息子と社会的かかわり

息子は発症してから28年、当初東京八王子の病院に入院、退院後は保健所のデイケアに通所しグループワーカーさん、保健師さんにお世話になった。

その後、府中の家族会が運営する作業所に長い間通所し、絵画の先生やSSTの先生につき一所懸命頑張り、公園清掃作業や布巾折り等ではお金をもらえ、旅行などいろいろな体験をしたと言う。英会話を勉強し英検準2級にも合格した。当地に転居して21年経過するが、病院や保健所のデイケアに参加し、油絵教室にも通った後、牛久のほっとピア・ワークスに開所時からほぼ通所している。現地家族会が中心となり、精神障害者の自立と社会参加、社会復帰を願って開所されたものである。当地に自立訓練事業所を開設されたピア・かたつむりO(オー)さんの尽力により、友の会、ゲームの会、パズルに参加し社会的関係を体験している。会長の紹介で訪問看護も10年利用させて頂いている。いろいろな関わりを持って接してくれる社会的資源や多大なる尽力に感謝すると同時に、当事者である息子が自ら通所している事に喜びをおぼえる。この様に振り返り長い道のりを感じると共に、息子には息子の人生があるとつくづく思い、人生を大事に見守ってあげたい。

龍ヶ崎地方家族会 Y・T

日本統合失調症学会に参加して

初めて日本統合失調症学会(ZOOM)に参加した。せっかくなのでチャット形式ということもあり、意見を述べたり質問したりして果敢に挑んでみた。特筆すべきは、「Nothing About Us Without Us」(私たちのことを私たち抜きで決めないで)という障害者権利条約スローガンに基づき、臨床家や研究者だけでなく、当事者や家族、支援者など、多様な立場の方々が発表したり参加していたことだ。このような活動がすでに始まっていることが嬉しい。

ズームバック

こちらのコーナーでは
県連によせられた
メッセージを掲載しています。



随時みんなの声を募集しています。
発行元までメール、FAX、ハガキでお送りください。
内容は最近の出来事、日頃行っている健康法などなど、なんでもOKです。(200文字以内)

ひとりで悩まないで家族会を訪ねてみませんか？

家族会は、身内に精神障害者を持つ家族が集まり、他人には話せないこと、わかってもらにくい悩みや体験を家族同士で語り合い、分かち合い、学び合うところです。ご連絡をお待ちしております。



家族会・NPO法人一覧

水戸地区精神保健福祉会	(029) 254-7815	坂東のぞみ会	090-2726-1874
笠間地方精神障害者後援会 (みやび)	(0296) 77-6610	古河地方家族会	(0280) 48-5878
ひたちなか地域家族会 (ネモフィラ結の会)	(029) 219-8261	神栖地方家族会	(0479) 21-7003
ハートねっと 日立市民の会	(0294) 38-2555	石崎病院家族会 (ひまわり会)	(029) 293-7155
鹿島はまなす家族会	090-7716-9380	NPO法人 日立ふきのとうの会	(0294) 38-0476
龍ヶ崎地方家族会 (ピア・かたつむり)	090-1614-2371	NPO法人 れいめい	(0299) 62-2331
取手精神福祉家族会 (ホットスペース)	080-3151-5566	NPO法人 なごみ	(0297) 48-5533
牛久精神保健福祉会 (ぬくもりの会)	080-4203-2707	NPO法人 つばさ	(0296) 22-4163
守谷のぞみ会	(0297) 48-5533	NPO法人 ふれあい	(0280) 48-5878
つくば精神保健福祉会 (やすらぎの会)	(029) 837-1456	NPO法人 あうんの会	(0297) 21-5680
筑西地方家族会	(0296) 52-2743	NPO法人 いぶき	(0299) 44-1891
下妻地方家族会	(0297) 42-1712	NPO法人 ハートスペースあゆみ	(0479) 21-7003

ご協力ありがとうございました



令和4年度賛助会員

賛助会員としてご協力いただいた方々のお名前を感謝を込めて掲載させていただきます。

(一社)茨城県精神科病院協会・大原神経科病院・酒門診療所・猿島厚生病院・汐ヶ崎病院・下館病院・つくば病院・廣橋病院・袋田病院・水海道厚生病院・みやぎきホスピタル・筑波東病院・武藤医院・植野産婦人科医院・城西病院・社会福祉法人光風会・社会福祉法人はまぎくの会・社会福祉法人ひだまり会・社会福祉法人創志会・NPO法人ボイス社・日電舎・石井一成・大貫操・草薙進郎・鈴木宣・立原さな江・渡邊佐智子(わたげの会)・森田英子・大木広・杉江彰・岡村寛・森實和子・楠明美・小菅智恵子・岩淵美保・ひたちなか地域家族会・兼清紀郎・弓野孝子・根本比呂子・清水紀弘・井川コヅエ (敬称略・順不同)

募集について

… 家族会・賛助会会員 …

茨城県連は、皆様の会費のみで運営しております。現在家族会員数・賛助会員数共に減少しており、非常に厳しい財政状況に置かれています。事務所の開所日数を減らすなど皆様にご不便をおかけしながら、運営しております。当連合会活動の更なる充実のため、多くの皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(賛助会費)

個人 2,000円～ 団体 10,000円～

(振込先) 郵便局【ゆうちょ銀行】

口座番号 00130-4-350775

名 義 社団法人茨城県精神保健福祉会連合会

編集後記

県連では4月から家族相談事業が始まり、予想以上の相談件数の多さに驚いております。さまざまな福祉サービスや相談窓口がありますが、その存在を知らない方もまだまだいらっしゃるようです。けんれんニュースを通して情報の提供、そして必要な方は家族会へおつなぎする、そんな役割を果たしたいと感じました。



今年も茨城県共同募金会の助成金により機関紙の発行が出来ました。募金に協力していただきました皆様に感謝致します。